

とされている（木元, 1984；木元・滝沢, 1994；滝沢, 2011）。ウリ類の害虫として知られるが、一方でエノキやカーネーションなどウリ科以外の植物も広く餌として利用していることも知られている（小宮, 1985；西東, 1985；滝沢, 2011）。

筆者は本種がクマツヅラ科のキバノタイワンレンギョウ（タイワンレンギョウの園芸品種、以下タイワンレンギョウと呼ぶ）の葉を摂食するのを観察し、証拠標本として下記のように2頭採集しているので報告する。

2exs., 沖縄県うるま市石川市民の森（沖縄島）, 12.VI.2014, 筆者採集・琉球大学博物館（風樹館）保管。

2014年6月12日午後1時40分ごろ、公園の遊歩道に植栽されたタイワンレンギョウの生垣（高さ30～60cmに刈り込まれていた）で本種成虫17頭を見つけ、そのうち3頭が葉を摂食しているのを確認した。摂食中の個体を撮影するため接近したところ、摂食をやめ、向きを変えて動き出してしまった。図1は動き出した個体を撮影したもので、成虫の右斜め後方、葉の縁に小さな食痕が認められる。

本種は、ウリ科植物の他に多くの植物種を加害することが報告されている（小宮, 1985；西東, 1985；宇田ら, 2001）。小宮（1985）は、エノキ（アサ科）、イタドリ（タデ科）、オオシマザクラ（バラ科）、ケヤキ（ニレ科）、キキョウ（キキョウ科）への加害を観察しており、特にエノキに嗜好性があると述べている。西東（1985）は、本種がカーネーション（ナデシコ科）を加害すること、そして宇田ら（2001）もカワラナデシコやカーネーションを含むナデシコ属植物を加害することを報告している。さらにフジ（マメ科）への加害も記録されているという（小宮, 1985 参照）。今回、沖縄島で新たにタイワンレンギョウ（クマツヅラ科）への加害が記録された。以上のように、クロウリハムシは草本から木本まで、ウリ科植物以外のタデ科やアサ科など7科に属する多様な植物種を餌として利用していることがわかる。



図1. タイワンレンギョウ葉上のクロウリハムシ。

## 引用文献

- 木元新作, 1984. ハムシ科. 林 匡夫・森本 桂・木元新作（編著）  
原色日本甲虫図鑑（IV）: 147-223. 保育社. 大阪.  
木元新作・滝沢春雄, 1994. 日本産ハムシ類幼虫・成虫分類図説.  
539 pp. 東海大学出版会. 東京.  
小宮義璋, 1985. ウリハムシとクロウリハムシの代用食. 月刊む  
し, (178): 4.  
西東 力, 1985. カーネーションを加害するクロウリハムシの  
発生生態と防除 1. 加害様相及び生活史. 関東東山病害虫  
研究会年報, (32): 212-214.  
滝沢春雄, 2011. 日本産ハムシ科生態観書 (5). 神奈川虫報,  
(173): 35-51.  
宇田 明・八瀬順也・中山正仁・藤井 紘, 2001. ある種のダイ  
アンサスをおとり植物にしたカーネーションを加害するク  
ロウリハムシ (*Aulacophora nigripennis*) の防除. 園芸学雑  
誌, 70: 753-759.

（小浜継雄 901-2216 宜野湾市佐真下 28）

## 【短報】石垣島の鍾乳洞内で採集されたエンマムシ 2種

ホルンナガエンマムシ *Platylistes (Platylistes) horni* (Bickhardt, 1913) は奄美大島、沖縄島、石垣島、西表島、与那国島および台湾から知られる種で (Ôhara, 2010), 生息環境に関する知見は報告されていないと思われる。

ナカネナガエンマムシ *Platysoma (Platysoma) takehikoi* M. Ôhara, 1986 は与論島、竹富島、石垣島、西表島、与那国島、台湾および韓国から知られる種で (Ôhara, 1986; 沢田, 1989; 佐々木ら, 2002; Seung & Lee, 2019), 生息環境に関する知見は、「樹皮下で発見されることが多く、今回も湿気を多く含んだ倒木で採集した」という記述 (沢田, 1989) がある。なお、上記の分布のうち、与論島の記録 (佐々木ら, 2002) は一次文献が不明であり、また、韓国の記録 (Seung & Lee, 2019) は大原博士私信によれば再検討が必要である可能性がある。



図1. ホルンナガエンマムシ  
♀.



図2. ナカネナガエンマムシ  
♂.



図3. 同、鍾乳洞内で発見された時の様子。

筆者の一人千代田は、石垣島北部の吉野にある鍾乳洞内でこれら2種を採集した。この鍾乳洞は正式な名称はないが、丸山・藤田(2018)では「吉野洞」と称されている。興味深い採集例であると考えられるので、以下の通り記録する。

ホルンナガエンマムシ(図1):1♀, 12. III. 2019,  
石垣市平久保, 千代田採集, 中村保管。

ナカネナガエンマムシ(図2, 3):1♂, 30. III.  
2019, 同所, 千代田採集, 中村保管。

鍾乳洞は海岸林内に存在し、地面にほぼ垂直に開口している。上記両個体は、鍾乳洞入口から垂直方向に3m程度、水平方向に5m程度進んだ地点において、午後5時頃にグアノの堆積した岩盤上のルッキングにより発見された(図3)。この地点は常に太陽光は届かず、昼夜問わず暗闇である。同定は中村が大原(1996)を用いて行い、後者に関してはÔhara(1986)を参照して雄交尾器も確認した。どちらの種も、鍾乳洞内の明るさ、湿度、餌資源の存在などが適していたために周囲の海岸林から鍾乳洞内に侵入したものと考えられ、洞窟内に生息するという一般的な性質があるわけではないと考えている。

末筆ながら、種々ご教示くださった大原昌宏博士(北海道大学)と現地調査に協力くださった東京大学生物学研究会の諸氏に御礼申し上げる。

## 引用文献

- 丸山智朗・藤田喜久, 2018. ウリガーテナガエビの石垣島からの初記録. *Fauna Ryukyuana*, (46): 5-9.
- Ôhara, M., 1986. On the genus *Platysoma* from Japan (Coleoptera, Histeridae). *Papers on Entomology Presented to Prof. Takehiko Nakane in Commemoration of his Retirement*: 91-106.
- 大原昌宏, 1996. 日本産エンマムシ上科概説 III. 甲虫ニュース, (115): 1-6.
- Ôhara, M., 2010. A new record of *Platylistes horni* (Coleoptera, Histeridae) from the Island of Okinawa-jima, the Ryukyu,

- Japan. *Elytra*, Tokyo, 38 (2): 200.
- 佐々木健志・木村正明・河村 太, 2002. COLEOPTERA コウチュウ目, 琉球列島産昆虫目録: 157-284. 沖縄生物学会.
- 沢田和宏, 1989. 与那国島で採集したエンマムシの記録. *月刊むし*, (221): 37-38.
- Seung, J. & S. Lee, 2019. A new species and three new records of tribe *Platysomatini* (Coleoptera: Histeridae: Histerinae) from Korea. *Journal of Asia-Pacific Biodiversity*, (12): 240-248.

(中村 涼 286-0035 成田市囲護台 3-5-5)

(千代田創真 355-0044 東松山市正代 894)

## 【短報】ケシアシボソシリシアゲハネカクシの記録

ケシアシボソシリシアゲハネカクシ *Euryusa hagai* Maruyama & Miyake, 2003 はハネカクシ科ヒゲブトハネカクシ亜科に属するハネカクシで北海道と福島県から記録がある(Maruyama & Miyake, 2003)。筆者は長野県、福岡県、長崎県対馬で採集しているので報告する。筆者が採集した3県からは初記録になると思われる。

10 exs., 長野県駒ヶ根市中沢, 3. IX. 2019, 筆者採集, 保管; 1 ex., 長野県佐久市春日, 4. IX. 19, 筆者採集, 保管; 3 exs., 福岡県糸島市瑞梅寺, 16. V. 2020, 筆者採集, 保管; 1 ex., 長崎県対馬市厳原町豆駒, 12. V. 2019, 筆者採集, 保管。

ほとんどの個体が地面から離れた太い枯れ枝から得られた。

末筆ながら、本種を同定して頂き、情報をご教示頂いた丸山宗利博士、標本写真の撮影などを頂いた野崎翼氏、発表にあたりお世話になった降旗進一郎氏に厚く御礼申し上げる。

## 引用文献

- Maruyama, M. & T. Miyake, 2003. Additions to the subgenus *Ectolabrus* of genus *Euryusa* (Coleoptera: Staphylinidae: Aleocharinae), with description of a new species and revised key to species. *Entomological Review of Japan*, 58 (1): 71-78.

(橋爪拓斗 819-0388 福岡市西区九大新町  
7セトル九大新町II 212号室)



図1. ケシアシボソシリシアゲハネカクシ.